

平成26年度国立大学図書館協会シンポジウム
分科会(名古屋大学附属図書館 2015.1.28)

学生が何をどのように
勉強しているかを知るには？

-Yaleでの調査報告-

千葉大学附属図書館学術コンテンツ課
谷 奈穂

自己紹介

- ・千葉大図書館亥鼻分館(医学系)勤務
- ・就職4年目(分館勤務は1年目)
- ・2013年～利用者調査(次スライドで説明)のプロジェクトに参加
- ・2014年10月、Yale、UMassに海外派遣
(H26年度国立大学図書館協会海外派遣事業)

今回、谷はYaleでの見聞から
考えたことについて話をします。

千葉大学、アカデミック・リンク・センターでの利用者調査

(2013年度第5回ALCセミナープログラムより)

- 1.千葉大生の学習状況・学習時間・学習環境利用の現状：学生アンケート調査からみた学習状況分析
- 2.新しい学習環境とコンテンツは、どのように行動に結びついたか：**フォーカス・グループ・インタビュー**
- 3.新しい学習空間はどのように利用されているか：定点観測カメラ調査
- 4.新しい学習空間で資料はどのように利用されているか：館内での資料利用調査（授業資料ナビ、ブックトラック調査
- 5.『学習』を促す「環境」・「コンテンツ」・「サービス」とは？：**学生撮影写真とインタビュー(フォトボイスインタビュー)**にみる『学習』の広がり

谷は2と5に参加

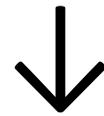
セミナー記録へのリンク
http://alc.chiba-u.jp/seminar/report2013_05.html

Q.学生が何をどのように勉強しているかを知るには？



A.学生にきく

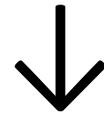
・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る



・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る



・問いを立てる



・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る



・図書館ではどうすればいいか考え、実践する

・問いを立てる



・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る



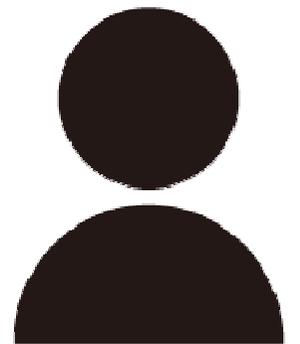
・図書館ではどうすればいいか考え、実践する

問いを立てる

- ・ガイダンスに人を集めたい
- ・データベースを使いこなしてほしい
- ・企画展示に来てほしい
- ・論文をすぐに探せるようになってほしい
- ・図書館でものを食べないでほしい

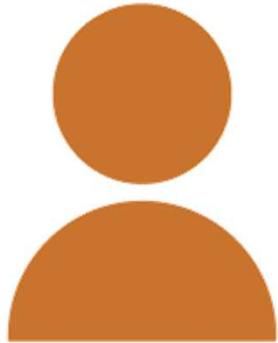
...んだけど、どうしよう？

学生の人、どう思うー？



図書館の人

問いを立てる



学生の人

知らん。

問いを立てる

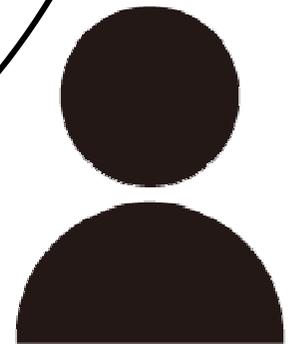
- ・図書館の中だけの問題になっている
- ・図書館のための質問になっている
- ・学生を変えようとしている

問いを立てる

- ・うちの●○分野の院生ってほかの分野と比べて修了遅いな...
- ・◇◆学部の就職率が年々落ちてる...
- ・全学のアンケート見ると、大学に勉強スペースが少ないって意見が一年生に多いな...

なんでだろう？学生にきいてみよう。

図書館としてできることは何か？



図書館の人

問いを立てる

- ・学生や大学全体についての問題を考えている
- ・図書館を変えようとしている

・問いを立てる



・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る

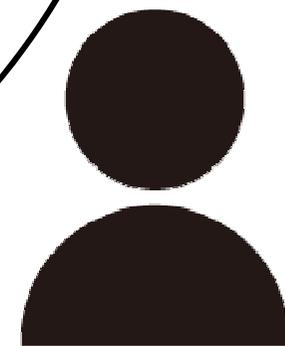


・図書館ではどうすればいいか考え、実践する

学生にきく

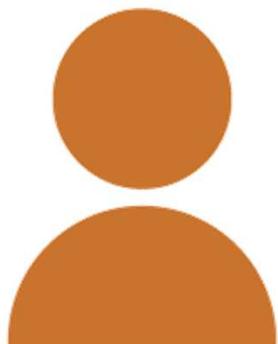
- ・うちの●○分野の院生ってほかの分野と比べて修了遅いな...
- ・◇◆学部の就職率が年々落ちてる...
- ・全学のアンケート見ると、大学に勉強スペースが少ないって意見が一年生に多いな...

学生の人、なんでだと思うー？



図書館の人

学生にきく



学生の人

(まあ確かにそう思うことはあるけど...)

よくわからん。

学生にきく

- ・「なぜ？」に対する答えを考えるのは学生ではなく自分(=ここでは図書館の人)。
- ・あくまでそのための材料として「学生が何をどのように勉強しているかを知る」。
- ・学生に聞くのは「あなたは、普段、何をどうやって勉強しているのか？」
(× 図書館をどのように使っているのか)

・問いを立てる



・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る



・図書館ではどうすればいいか考え、実践する

学生が何をどのように勉強しているかを知る

学生に「あなたは、普段、何をどうやって勉強しているのか？」を聞く



学生の発言を分析する



学生が困っていること、不満に思っていること、便利に使っているもの、不足しているもの...などなどを発見する

学生が何をどのように勉強しているかを知る

どうやって？

- ・アンケート(量的調査)だけ？
- ・インタビュー(質的調査)だけ？

→併用する。

調査手法によって
調べられる事柄は違う。

学生が何をどのように勉強しているかを知る

誰が？

- ・図書館員だけ？

- + 調査(≠図書館情報学)のプロ(質問のつくりかた、質問の仕方、分析の仕方)

- + 図書館員以外の人(他の人の目、図書館だけの調査ではなくなる)

- ・「大学全体」についての問い→得られる結果は大学全体にかかわること→関係する学内他部署(学務、情報...)の人も最初から調査に関わっていれば、改善できる項目が多くなる(図書館だけで解決しようとしなない)

・問いを立てる



・学生にきく



・学生が何をどのように勉強しているかを知る



・図書館ではどうすればいいか考え、実践する

図書館ではどうすればいいか考え、実践する

調査が終わればそれで終了？

- ・結果をふまえて何かを変えること

→学生にとって「改善された」と感じなければ信頼されなくなる。

- @Yale Interview with Ms. Denise HERSEY



問いを立てる

→人文科学の博士課程学生 (Ph.D.h) の課程の修了が他の分野と比べて遅いようだ。なぜこのようなことが起こっているのか？図書館として何かできることは？

調査の概要

- (調査メンバー) 図書館員11人 + 人類学者 (Nancy Fries Foster)。
- (対象) Ph.D.h 33人
- (手法) 事前アンケート + インタビュー。
- (分析) 定期的にミーティングを行い、発言について分析。

もっと具体的に

- (対象の募集方法) 学部長から学生にアナウンスしてもらい、興味のある学生を集めた。謝礼あり。
- (調査メンバー) 人類学者のNancy Fried Fosterからは調査方法や質問の作成の仕方、質問の仕方についてレクチャー(丸2日)を受けた。全員こうした調査は初めて。
- (調査手法) 基本情報について事前にオンラインでアンケート。その後1人1時間程度のインタビュー。結果は書き起こし、セクションごとに切り取り、カード化して整理。結果を分析するために毎週ミーティング。
- グループのみで資料の共有ができるソフトウェアを利用してインタビュー情報等の共有をおこなう。
- 個人情報保護については、各データにコードを付与して個人が特定できないようにしている。

調査の結果(一部)

- 学生は自宅で勉強することを好む
- 春季休業中、学部生がいない時期(=大学院生が集中できる時期)に図書館が早く閉館する
- 学生たちはデータベースで論文を検索するよりも、他の人の論文や本の章からの引用文献を探す傾向がある。
- 調査のために海外へ行く必要がある。準備やその後のまとめも含め多くの時間と労力がかかる。
- 博士論文執筆前に十分なトレーニングを受けられていない状態でいきなり大部な論文を書かなくてはならない。

結果を受けて(図書館ではどうすればいいか考え、実践する)

- 学生は自宅で勉強することを好む
→自宅にいながら資料が入手できるようにするには？
- 春季休業中、学部生がいない時期(=大学院生が集中できる時期)に図書館が早く閉館する
→開館時間を見直す？
- 学生たちはデータベースで論文を検索するよりも、他の人の論文や本の章からの引用文献を探す傾向がある。
→より実態に即したガイダンスを考える？
- 調査のために海外へ行く必要がある。準備やその後のまとめも含め多くの時間と労力がかかる。
→海外渡航への相談に乗る？

ここに「→」で書いた解決策案
は谷が考えたもの。

Yaleでは検討中とのことでした。

- @Yale Interview with Ms. Emily FERRIGNO



問いを立てる

→School of music (SoM)の学生はどんなサービスを必要としているのか？図書館として何ができるのか？(学生にとって必要な存在でありたい)

調査の概要

- (調査メンバー) 図書館員1人 (Emilyのみ) + SoMの学生3人。
- (対象) SoMの学生40人
- (手法) 事前アンケート + インタビュー (インタビュアーは学生のみ)。
- (分析) 学生たちとミーティングを行い、学生の発言について分析。

調査の結果（一部）

- 図書館の資料はあまり使わない。
- そもそも図書館にあまり来ない。楽器を演奏する場所もスコアを印刷する機械もないので、滞在しない。
- むしろSoMのラウンジでくつろいでいることが多い。

結果を受けて(図書館ではどうすればいいか考え、実践する)

- 図書館の資料はあまり使わない。
 - 2階にあった雑誌を1階に移動。学生たちはその存在に気がつき、手にとって見るようになった。
- そもそも図書館にあまり来ない。楽器を演奏する場所もスコアを印刷する機械もないので、滞在しない。
- むしろSoMのラウンジでくつろいでいることが多い。
 - 図書館内にもラウンジのスペースを準備
 - 学生を図書館にひっぱってくるのではなく、図書館員自身がSoMに出向いてリソースの紹介などをおこなうEmbedded librarianshipを計画中

ここに「→」で書いた解決策は実際にYaleでやっていること。

・問いを立てる
(「学生」「大学」に目を向ける)



・学生にきく
(学生自身のことをきく)



・学生が何をどのように勉強しているかを知る
(調査にはプロの手と図書館員以外の目)



・図書館ではどうすればいいか考え、実践する
(調査だけに終わらない)

その調査は何のため(=学生のため、図書館を変えるため)のものか、忘れないこと。